曽於文藝

うたごよみ

俳句

末吉俳句会

儚さも熱き思ひも蝉時雨　古藤　まゆ美

後戻り出来ぬ人生盆用意　下大田　正子

リュック背負ひペダル軽々夏休み　宮路　生大子

大隅俳句会

ゆっくりと雲立ちあがる青田かな　大川　満

渓音に負けじと鳴くや夕の蟾　福村　よう子

夏霧のかかる古民家レストラン　岩重　みどり

短歌

末吉短歌会

五月野に点となりゆく揚雲雀
憧れは陽にもっとも近し　森岡　ちどり

蘖はれて自ら断ちし尾の青が
とかげの去りし跡に跳ねをり　大森　澄子

「題字」
末吉文化協会会員
瀬戸口　淳民氏

ヤマボウシ瀑布のやうに耀へる
五月の森に迷ひは捨てむ　長倉　佳津子

大隅短歌会

軍色の服を背広に変えし日の
写真の父の五十年忌す　竹内　娃子

溝辺より遠きわが家のガラス戸に
夫の化身か螢のひとつ　吉﨑　フサ子

ふたたびを家に戻れるめどのなき
老いを見送る入院の朝　加塩　秀子

財部短歌会

六月灯花火一発輪の中に
高千穂の峰明日も天気だ　山下　さとし

合戦のカニの役にて紙芝居
よしあしいふは園児のまなざし　井上　澄子

新たなる投資事業の声高し
借金財政誰が責め負う　児玉　次雄

もみぢ手を高々とあげハイタッチ
けふもすこやか夏の夕ぐれ　杉村　リカ

薩摩狂句

にがごい会末吉支部

病人同志しゅ　沢山集せっ
儲くい病院　桐野　奈世

小食言が　沢山の御馳走
食て平然　鈴木　一泉

子分限者　何も彼いもが
沢山要っ　森山　厚香

高齢の沙汰　沢山の料理
食がならん　浜田　一好

大隅薩摩狂句会

飲ん方い　なれば諄どなっ
寄い付かじ　黒木　義士

笑るも笑る　腹が痛て言て
尚笑るっ　太良木　五徳

何処かでか　話す変えんな
止まん法螺　神宮司　素水

探け出た　臍繰やずうず
使こたくっ　新屋　涼子

読んだ感想、今後取り上げてほしい話題や記事、
あなたの身近で起きた出来事などお寄せください。